

# ほろたっぴ 特集号

より安全な幾春別川をめざし

洪水から地域を守るための「鯉沼築堤工事」のニュースレターです。

## 幾春別川新水路の完成を祝って

対策協議会の方々に活動経緯や地域の思い出などを  
お聞きし特集しました。～



平成 20 年 11 月 12 日  
幌達布新水路事業  
対策協議会  
会長 池田 満

いつも地域の皆様にはご協力をいただきありがとうございます。  
このたびの幾春別川新水路事業に対しまして「自分たちから見れば都合の悪いところがあっても、公のことだ、やむをえない」ということで皆さまから暖かいご理解を頂戴してきました。

「新水路完成後は水がきれいになり、美味しい作物が取れるようになり良かった」という声も聞きあらためて地域のために役立てたとの思いを強くしております。

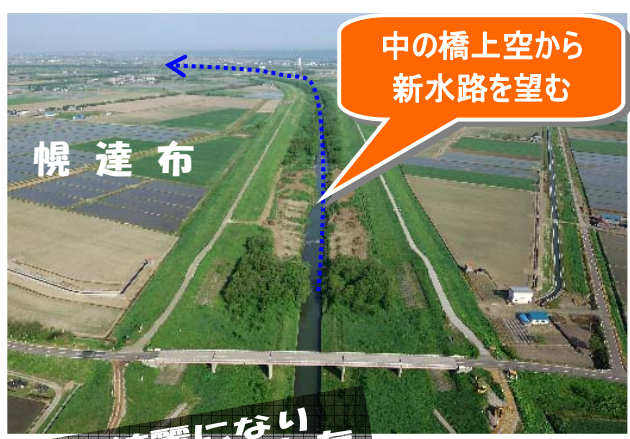
皆さまに無理強い絶対にはしないということを基本とし、「皆さんの話をていねいに聞いてあげなければ」との考えでここまでやってきました。

そのような我々の活動の積み重ねがこの地域の皆さまからご理解されているということが協議会活動の大きな成果であったかと思ひ感謝しております。

これからも地域の発展のためご協力を賜りますよう宜しくお願いします。



用水路の掃除が楽になりました。



水が綺麗になりました  
おいしくなりました

## 完成した新水路

石狩川

幾春別川 新水路

# ほろたっぷと川にまつわる話

- 私は新篠津の中学校に渡船で通っていました。夏は船、冬は石狩川に張った氷の上に柳を敷いた馬でも通れる氷橋（道）です。
- この渡船場は現在のたっぷ大橋の所にあり懐かしく思い出されます。（川崎栄一氏）
- 昭和 25、26 年頃は娯楽も少なく、9月 10 日の秋祭りの余興が楽しみでした。対岸の新篠津の秋祭りへ渡船で出かけたのですが兩岸に張っていたワイヤが切れ舟が流されてしまいました
- この頃の石狩川は蛇行しており 200m ほど下流の中島に漂着し助けられたのが思い出として残っています。（作田欣一氏）



青木神社



鯉沼



青木公園

## 子供のころに遊んだ大沼



## 北村地区

### 河川防災ステーション

### たっぷ大橋

平成20年10月17日撮影

岩見沢大橋が生まれ変わりました。

## 米づくりの話

- 我々の地区が開田したのは昭和 29 年でしたが、土地改良も出来ておらず 1 枚の田が10アールに区画されていました。
- 当時は代掻を馬で、田植え・除草・稲刈りはすべて手作業でした。今おもうとよくやってきたなと思います。
- 昭和 29 年 9 月 26 日は洞爺丸台風が襲来し、新田に作った「石狩白毛」という背が高く茎が強い倒れにくい品種の稲穂が風にもまれ、籾がほとんど落ちてがっかりしたことを思い出します。（川崎栄一氏）



稲刈り体験(北海土地改良区)

H20.09.16

用水の塩分が無くなり、レタスの育苗に使えるようになりました。



JAいわみざわ「もぎたて市」



H20.10.02

脱穀体験(北海土地改良区)

## 洪水の体験の話

昭和 36 年 8 月洪水



作田氏提供

昭和 50 年 8 月洪水では、旧美唄川の堤防を切って内水を排出し、稲を水害から守った記録があります。

- 昭和 36 年洪水は小学 6 年生の時で、幾春別川の築堤一杯まで泥水や雑木・ドラム缶・ゴミ・家畜の死骸などがものすごい勢いで流れていき、大変な恐怖心を持ちました。
- 新水路完成前は春・秋の出水で低い田は必ずといっていいほど浸水しました。(田中晴次氏)
- 昭和 36 年 8 月洪水は稲穂が出た水稻が冠水し自衛隊のご支援を受けました。自宅も浸水したため 1 週間ほど 2 階で寝起きをしたことが思い出されます。(町田一雄氏)



昭和 36 年 37 年の大洪水のとき私は消防勤務であったため、自宅が床上 50cm の被害にあっても片付けをすることが出来なかったことを思い出します。周りの水田は 1 m50cm ほど冠水していました。(川崎栄一氏)



昭和 56 年 8 月上旬洪水



作田氏提供



作田氏提供

## 新水路事業対策協議会での～ 一番苦勞したことは？

- 公共用地 14ha の確保です。これで幌達布の中心地としての役割が果たせます。(作田欣一氏)
- 今回の事業の前に 2 度、移転者が多数有りその方々は犠牲となることを恐れ反対しました。移転補償費が確定するまでには多くの苦勞がありました。(町田一雄氏)



道内でも有名になった土間の体育館  
土里夢 (Tsurumoto Sports Center)

## 新水路事業対策協議会での～ 一番の功績は？

- なんとといっても一番の功績は池田会長を柱とした対策協議会の三役です。石狩川開発建設部との度重なる検討会に向け日夜住民のための要望案件に取り組んでいただきました。また、村の担当職員も一緒に汗を流しています。
- 土里夢 (土間体育館) を誘致した事と公共施設移転用地を確保できた事も挙げられます。当時の北村議会からも理解を得ることが出来ました。(町田一雄氏)



- 池田会長を中心に役員一丸となって、地権者・地域住民の要望実現に取り組んだことです。(作田欣一氏)

- 村には公共用地 14 町歩を確保してもらい、いろいろな施設整備が出来た。水害に強いまちづくりによって安心して良い農作物を作ることが出来る。

(H18. 3. 7 座談会から) 元北村議会副議長 田中晴次氏



# 新水路事業対策協議会で～ やり残したことは？

- 農業のまちとして消費者にアピールするものを農家みずからが多くの人に情報発信することが必要であり、そのような活動グループを育てていく事が大事です。

(H18. 2. 10 通水記念シンポから)  
元北村議会議長 大原弘一氏



- 水害に強いまちづくりをと言われたが、支川堤防となることに抵抗感があった。
- 新水路が完成した今、地元の不満は解消されていたと聞き大きな勲章を頂いた思いです。

(H18. 3. 7 座談会から) 協議会会長 池田満氏

ニュースレターを手にする  
島さんと作田さん



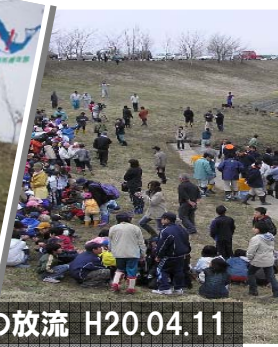
## 幌達布地区の将来の話

- 未来の幌達布は保育所にあります。
- 純農村地区としての情報発信
- 大沼周辺環境の活用による町の活性化 (池田満氏)

植樹会 H20.10.01



サケ稚魚の放流 H20.04.11



“ほろたっぷ”のこどもは  
地域で育っています。

保育園



公民館



土里夢

お寺

行政と地域住民が協働して川づくりを！



幾春別川の清掃



行政と住民の協働による川づくり



市民参加による緑の回廊づくり



工事関係者からの地域貢献 [公民館入り口の段差解消]

ほろたっぷ

編集発行元 宮脇大木建設株式会社

このニュースレターはホームページでも公開しています

<http://www.kensonet.co.jp/miyawaki/>

発行日：平成 20 年 12 月 12 日